

# シラバス

## 選択講習

講座番号	5	講座名	日本史(歴史)教育に地域史研究の成果をどう活かすか(その2)					
担当講師	開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講定員	講習形式	試験方法	
松井 輝昭	広島キャンパス	6時間	平成21年7月26日	中学校社会科・ 高等学校地歴科 教諭	30人	講義	筆記	
講座概要								
到達目標	日本史(歴史)教育の素材となる地域史研究(厳島神社史)の最新の知見を理解している。							
<p>1 講座の概要</p> <p>身近な地域の歴史や文化遺産の学習を通して、歴史への関心を高めることを求めている学習指導要領に対応するため、厳島神社を中心とする地域史研究の最新の研究成果を紹介しながら、新たな知見を高等学校「日本史」や中学校「社会科」及び「総合的な学習の時間」の授業にどのように活かしていくのかを考える。</p> <p>2 講義の内容</p> <p><b>講義① 安芸国一宮厳島神社と平清盛</b></p> <p>厳島神社の長い歴史を明らかにしようとするとき、まず平清盛の亡霊と対峙しなければならない。厳島神社は平清盛時代を迎える以前に安芸国一宮となり、国衙の手で神事・祭礼が営まれるようになっていた。この国衙祭祀は厳島にある内宮ではなく、対岸の外宮で執り行われていたのである。その伝統は今日も外宮であった地御前神社に生きている。しかし、平清盛が篤い崇敬を寄せてたびたび参詣し、多くの珍宝を奉納したのは内宮であった。このような内宮と外宮の違いをも踏まえて、平清盛の厳島神社信仰の背景とその特色を考えることにする。</p> <p><b>講義② 厳島神社の秘宝と宝蔵</b></p> <p>厳島神社には国宝の「平家納経」を始め、平安時代末期以来の多くの秘宝が伝わっている。これ以前に厳島大明神に寄進されたであろう宝物は全く残されていない。この大きな違いは神物の保管庫である宝蔵が存在したか否かによる。宝蔵が建てられ神物が籠められるようになって以降、厳島神社では七夕に「虫払い」を行うなどしてその厳重な管理・保管をした。戦国時代になると、自分が寄進した神物が宝蔵に籠められることを願う信仰さえ生まれた。また、宝蔵には宝物だけでなく、厳島神社の重書類も籠められた。こうして神物や記録の永世の保管庫となった宝蔵が、厳島神社の歴史や文化にとってどのような役割を果たしたのかを考える。</p> <p><b>講義③ 厳島神社の戦国ルネサンス</b></p> <p>戦国時代は厳島神社にとってルネサンス期に当たる。ルネサンス期とは古い文化の再興とともに、後代に続く新しい文化の創造をも意味する。今日に続く四脚の大鳥居の形式は、戦国時代に再建されて以降のものである。全国的にも珍しい古式を留める舞楽も、戦国時代に改めて四天王寺から移されたものといえる。今日では厳島神社最大の祭りとなっている管絃祭も、戦国時代に厳島の町衆をも巻き込み営まれるようになったものである。このように厳島神社の神事・祭礼で戦国時代にまで遡ることのできるものは少なくない。厳島神社にとって戦国時代とはどのような時代なのか、その名残がなぜ今日まで続いているのかを考える。</p> <p><b>講義④ 厳島神社の神仏習合と神仏分離</b></p> <p>今日の厳島神社は明治時代前期の神仏分離の嵐を通り過ぎたのちの姿を伝える。明治新政府の神仏分離令施行によって、厳島神社から仏教的要素がことごとく排除された。僧侶が参加していた神事・祭礼も消滅するか、大きな変容を余儀なくされた。厳島神社にあった仏堂や仏典はほとんどが破却・焼却された。仏像もすべて厳島神社から追い出された。だが、宝蔵に置かれていた「平家納経」などの経典、仏堂の千畳閣・五重塔・多宝塔はなぜか破却を免れた。このような例外的な措置が採られた理由をも含め、厳島神社にとって神仏分離とは何であったのかを考える。また、その前提としての神仏習合の意味をもあわせて検討する。</p> <p>3 その他</p> <p>学校でお使いの中学校・社会(歴史分野)、高等学校・日本史の教科書をご持参ください。</p>								